

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成21年8月

立命館大学建設会

第23号

会長挨拶

建設会会長

可児 幸彦

昭和四十二年卒



建設会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年十月の建設会総会、ならびに、土木工学科創設七十周年記念行事当日は、建設会会長に推挙いただき、身に余る役割と恐縮しております。

さて、ここで以下に最近注目の話題に触れて見ます。

アメリカ発と言われている経済不況が深刻で、その影響は世界中におよび、大変なことになっている。日本はなんとか健全に推移しているとの情報に一安心かと思っていたが、東海地方の有効求人倍率が五十%というニュースが報じられた。本当か

と耳を疑った。同時に信じがたい情報が舞い込んだ。二百五十八円が盗いでコンビニでお茶とお菓子を盗んで某大学院女子学生がつかまつたと言うニュースである。日々の生活で苦労していたのだから同情もする。最近よく聞く「経済制裁」、次にとんでもない何かが起こりそうな危険予みを予測させる言葉である。

戦後育ちの自分を振り返ってみると何かを忘れていた気がしてならない。「貧乏人は麦を食え」、「働かざるもの食うべからず」、「所得倍増」 「日本列島改造論」 「土木は経済社会の蛇口」と言った言葉に大義名分を見出し、ただひたすらに働いてきた。

それこそ家庭も何も顧みずである。自分の狭い範囲での経験だが、くいの載荷試験では、二十四時間不眠不休の計測が結構多かった。また、テナントの中で仮眠し、次の試験の準備と前の試験結果の報告書作成提出などと言ったことは珍しいことではなかった。その延長で最近まで働いていたので、間断なく仕事をすることが当たり前であった。

最近、自治会長を経験し、地元の若い人たちの話に花を咲かせることがある。住んでいる班の中でも職業はさまざまで、自動車メーカーの下請工場で働く人、自営の人、医者をしてる人、市の職員その他が居られる。

工場勤務の人たちは「最近暇で、三勤四休は当たり前四勤三休かいいなあ、二勤五休もあるよ」と言っている。

翼をたたんだ天使達

環境都市学系 学系長
環境システム工学科

神子 直之



今年度学系長を拝命しております環境システム工学科の神子と申します。本学着任三年目で早くも大役を仰せつかり戸惑うことの多い毎日ですが、大過無きよう心して務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

さて、昨年度末には別稿にもあります通り春名攻教授が定年で退任されたことに加え、年限付き教員であったピクター・ムハンディキ先生、小松喜一郎先生、小澤雄樹先生が退職され、今年度頭には武田史朗先生が准教授に昇任、佐藤圭輔先生、山田悟史先生、張学鵬先生が新たに着任されました。学系教員の陣容も大学からの要請で必ずしも思うように行かない現状ですが、新任の方々のフレッシュさから刺激を受け、新たな気持ちで教育、研究、学内運営に一同頑張っております。

教員の入れ替わりは仕方ないことと

して、一方で学生は必ず入れ替わりです。毎年新入生入学の春、三回生が研究室に仮配属される秋・冬には、どんな学生が来るのだろうかと思いが躍ります。そして徐々に、半ば期待以上の学生だったり、あるいはそれ以下（？）の学生だったりすることが、（自分のことは棚に上げて）わかってくることとなります。

昨今の学生事情と言え、捉え所の無い低回生の増加でしょうか。特に学力低下については、大学全入時代に突入していると言われることがあるように、確かに感じられます。特に、習得に時間がかかり知識を集積していく作業が必要な、数学や物理のような科目において特に見られる問題です。しかし、それは単に大学に入り易くなったからとか、ゆとり教育世代だからというミクロ的な風潮だけでは説明できない

今この学生は押しなべてナイーブで、自己主張することを嫌い、人との関わり合いをわざわざ持ちたくない、避けられるものなら避けたいと思っているように感じます。そしてその根底には、核家族世帯の親を持ち、人間関係の構築に不慣れで、表面的で希薄な人間関係を心地よく感じているある種のプライドの高さがあり、一方で先行き不透明な社会情勢で自分の将来像を描ききれないという状況があります。さらに、小学校、中学校、高校とどこでも競争を余儀なくされて一部の勝ち組以外は負け続け（これが、あきらめ感へとつながる）、同時に今の若者風人間関係の維持（個性的であるということ）を共有する没個性に、ほとほと疲弊してしまっている感じがします。勉強は適度に頑張れば適度に成果は出るし、無理してまで頑張るのはむしろカッコ悪い。期末試験勉強についても一夜漬けで適当にやった気になり適当な点が取れる。自分の時間のほうが大事。そのようにテキストに頑張る。つまり、本気で頑張ったことが無い、だから心底から成功したと思えた経験も無い。大学に入った天使達は、自分の背中

に翼があることに気付かず、それを折られたまままで過ごしているのです。では、社会人への準備段階である大学が、そのような学生達にどうあるべきか。筆者はこう考えます。人に囲まれていることを実感した上で自分の意思の具現化、そのような成功体験が必要だ、と。

卒業研究を学生にとって充実したものにするために、教員はそれぞれ様々な工夫をしています。ただ言われた通りにロボットのようには作業をこなすだけでなく、多少の充実感は得られます。しかし、自分にウソをつかずに頑張ったと言え、程に頑張れば、得られた成果がどんなに小さかったとしても、それが彼あるいは彼女の後の人生において頑張れるという確かな自信につながります。そして、それが自分を支える先輩、同級生、あるいは教員（と思っ）てもらっているだろうか。に囲まれ助力を受けてあればなおさらです。

ナイーブな学生を頑張らせるためには「船と鞭」を駆使し、「口に甘い言葉」を飲ませ、「研究は遊園地だ」くらいの面白さを（多少こちらが用意して）感じさせ、目標へ進むように線路をひき燃料をくべてやります。研究を進行させ

は努力の原動力である。と云ったノーベル物理学賞の益川先生の話と同じことになる。また、私たちが受けてきた教育、立命館大学の名称の由来も同様に問に対する回答を示唆するものである。

つぎに、自分を鼓舞し、その努力を続けつつチェックするのに最高の場所について示す。それは、ご存知の七十年間先輩方が続けてこられた建設会などの同窓会である。ここでは、お互いに難しい説明を必要としない。初めての人でも挨拶をし、どの場面から入っても、あまり気にかけないで受け入れてもらえる。また、多少間違っても、直ぐに注意してもらえ、気楽に話ができる。

末筆となりしましたが、このように、私たちは、多くの出合いの場所を持っていきます。このことを普段から意識し、不断の努力を積み重ね、活躍して行きたいと思えます。今後、本建設会の益々の団結を図り、社会に貢献したいと思えます。

の上では新たな知識やスキルが必要になります。必要を理解することで本人が喜んで勉強するようになります。さらに、コミュニケーションの経験値を上げるために、ほぼ強制的に議論を行わせます。このようなやり方は学生に「迎合」していると言われる向きもあるかもしれませんが、学生と我々の世代とは「文化」が異なるので、ある程度自分が受けてきた教育からの変更、修正、あるいは譲歩は必要だと思っております。

卒業研究の終着点は、自分が頑張ったと言え、程に頑張れば、得られた成果がどんなに小さかったとしても、それが彼あるいは彼女の後の人生において頑張れるという確かな自信につながります。そして、それが自分を支える先輩、同級生、あるいは教員（と思っ）てもらっているだろうか。に囲まれ助力を受けてあればなおさらです。

ナイーブな学生を頑張らせるためには「船と鞭」を駆使し、「口に甘い言葉」を飲ませ、「研究は遊園地だ」くらいの面白さを（多少こちらが用意して）感じさせ、目標へ進むように線路をひき燃料をくべてやります。研究を進行させ

会員の声

建設会会員名簿について



河口 清
昭和三十四年卒

昨年の第十四回建設会総会で立命館専門学校が大学になって初めての名簿発行した事について発言しましたが、改めてこの場を借りて会員の皆様にお伝えしたいと思いついて投稿しました。先ず北川先生の名簿発行にあたってをご紹介します。

「名簿発行にあたって」北川幸三郎「友有り遠方より来る。また楽しからずや」という古語がある。まことに人情の奥底に触れた至言である。机を並べて共に学び、春秋、花に紅葉に行楽を共にした学友が、各地に離れ離れになって忙しい活動をしている。お互いは、仲々会う機会がない。せめて懐かし心の行き交いに、楽しかった昔を偲ばせて呉れるものは、お互いの消息を知ることである。また消息を知ることによって、お互いは、日常において努力して活動の向上をはかる上に、お互いの友情に負うところ大なるものがある。或は在学生会員と卒業生会

回顧に寄せて想うこと



岐阜県支部副会長
小木曾 醒道
昭和三十六年卒

員との間の親睦、更に会社と母校との絆となるであろう。今度多年の要望であった建設会名簿ができて、お互いの手元へ届けられるようになったことは、まことに有意義なことであって、会の発展のためにも祝福に堪えない。今後これを基として、年を逐うて加除訂正を重ねて、永続されることを偏へに念願するところである。

その経緯は北川先生より我々三十四年卒が三回生の時、建設会名簿は昭和二十四年四月に立命館専門学校工学科が理工学部への発展的解消を見たときを転機として、作成して頒布したが、その後多数の卒業生会員を擁し乍ら遂にその実現を見ずに今日に至っているのだなとか名簿を発売してほしい旨のお話がありました。よって私達が建設会のお世話をしていましたので、その年の一つの仕事とする事となりました。

しかし、長い間かかって集められた原稿なので不備が多くなるべく正確な名簿を作成したいとの思いで往復ハガキで確かめる等と印刷費の工面で先輩が勤められていた会社での広告を事情を話してご協力を頂きましたので七ヶ月を要し漸く出版にこぎつけました。今は立派な名簿がありますがその間色々努力され、現在に至っております。北川先生の今後これを基にして年を逐うて加除訂正を重ねて永続されることを偏へに念願するとの事に応えられていると思います。



昭和三十六年、本学卒業以来四十三年間、高度経済成長時代から安定成長へと向かう日本経済が著しい発展を遂げる中、土木関係業務に従事し、土木畑一筋に充実した日々を送り終えてきた事に想いをめぐらすこの頃です。私生活では、遡る事退職職迄の二十二年間、私の両親が高齢となりやむなく妻と二人の子供を実家に転居させ、単身赴任生活を送って参りました。そのせいか、実家に戻ってからは、三人の孫の世話やらなんやらと、もっぱら慣れぬ家庭サービスに追われ、勤務に励んでいた頃よりストレスが高まっております。孫の母親が勤めに出ていることもあり孫の登下校当番、水泳教室や友人宅への遊びの送迎、宿題の世話等々、腕白盛りの男児はもっぱら私に懐き、子供達にいいように踊らされている感も拭いきれません。が、この年齢ともなると孫は無条件に天使のように可愛いです。無邪気な幼児の寝顔とは裏腹に、日本及び世界中が、アメリカの金融危機に端を発する百年に一度と言われる厳しい経済環境に置かれ、幾多の懸念される諸問題を抱えています。資源の乏しい我が国では世界をリードする土木最先端技術を筆頭に、環境問題についても数々の技術革新、開発がされ、その技術をもってロシア、中東等の資源保有国と提携締結がなされ、資源の確保が可能となっております。こんな素晴らしい技術(最先端)保有国である我が国の我が家の孫達の将来を思いやりつつ目を向ければ、テレビ漫画にかじりつき、終われば



ばゲームソフトに夢中で、おやつも食事も耳に届かぬ有様で、私の血圧はいつも上がり放しとなります。最近少し気を取り直して、気長にこの子等と一緒に暮らしつつ、私も老いを喰い止めるよう努力しようと考えて次第です。

最後に支部である岐阜県建設会誕生に際しましてご苦労、ご尽力いただいた方々に深く感謝致し、皆々様健康にご留意されます事をご祈念申し上げます。

ゲリラ豪雨



関東建設会
江間美久
昭和四十五年卒

昨年八月五日、東京都豊島区での下水道管のリニューアル工事で集中豪雨による増水の為作業員五名が死亡した事故はいまだ記憶に新しいと思う。この事故をさかんに「ゲリラ豪雨」という言葉が一般化された昨年の流行語大賞にまでノミネートされたのだが、今年もまたこのゲリラ豪雨の時期がやってきました。この現場は私の勤める竹中土木、そして東京本店長で

あった私の管轄のもとで起きた会社始まって以来の重大災害でありました。現場責任者の業務上過失致死容疑、会社に対する労働安全衛生法違反容疑については、この三月末にいずれも不起訴処分ということで決着しました。結局雨が降り始めてから事故発生までの短時間で危険が予測できたかどうか

が問われていたが、急激な増水は予測不可能であったという結論です。しかしながらこれだけ一件落着けではなくこの事故を真摯に反省し受け止め、今後類似の事故を二度と起こさないようにと念じています。昨夏は特に全国各地で「ゲリラ豪雨」が多発していた状況を踏まえ、山岳での工事の土石流災害、都市土木工事の増水陥没事故は多くの場合予測が難しいのが現状であるが、その努力は最大限なされなければならぬと思う。ハ

イテク技術の開発はもろろんのことだが、現場にたずさわるすべての方々の危険に対する感性をもっともっと高めていただきたいと願うと同時に今回の事故で犠牲になられた五名のご冥福をお祈りいたします。

このたび関東建設会の副会長をおおせつかりました。何をしたら会員のためになるのか会員同士のコミュニケーションはどうすれば深まるか、いろいろ考えていきたいと思います。

ふるさとと土木行政



福井県衣笠会
田中 伯太郎
昭和四十五年卒

豪雨による洪水が我が家を襲ったのは五年前、妻と二人で京都祇園祭の「コンコンチキチ コンチキチ」というお囃子を四条通で聞

いたある日、平成十六年七月十八日である。

明るくなりかけた空は分厚い雲に被われ、未明から降り続く雨は明るくなってから土砂降りとなった。遅い朝食を終えた午前九時頃には時間降雨量六十ミリメートルを超え、降り始めからの総雨量は百九十ミリメートルに達していた。道路側溝が溢れ出してから三十分も経たないうちに床下に水が浸入していた。

布団や襖を二階に運び、「しっぶくだい」(福井地方の方言で「卓袱台=食卓」のこと)の上に畳を積み、テレビ、パソコンをその上に載せ、流れる長靴を呆然と見送った。

ぶかぶかと濁流に浮き始めた自家用車は如何ともし難く、流されな

いことを祈るのみであった。隣の肉屋ではアイスクリーム用の冷凍庫を必死で押さえていた。LPGのガスボンベが漂っていた。乗用車が立ち往生して運転手は脱出したが、その自動車は水没した。その横をワンボックスカーが流され、ずぶ濡れになって止めようとしていた持ち主は合羽を着ていたものの、裸足で飛び出してきたために数針縫う傷を負ったという。

ロープを肩にかけた消防署職員二



人が、胸まで水につかりながら、
独居老人を救出する、と言って上
流へと向かっていった。
救助用ヘリコプターが空を飛んで
いた。

雨が止み、水が引いた後の静寂と
蟬の鳴き声が耳にしっかりと残っ
ている。

名づけて「平成十六年七月福井豪
雨」は、継体天皇所縁の伝統ある
越前漆器の産地「河和田地区」に
も歴史に残る大きな災害をもたら
した。

翌日から現地災害対策本部での
復旧作業である。

一日目は地区内の建設業者数社が
保有している重機類で土砂の始末
をしたが一向に埒が明かなかった。
二日目からは市内の全建設業者の
協力を得て、小学校の校庭を第一
次仮置き場に指定して、生活道路
の確保を最優先に、道路を塞いで
いる水に浸かった家財道具と泥土
の除去を徹底した。

パワーショベル、バックホウ、ダ
ンプトラック、ブルドーザーなど、
さらには高圧洗浄車、バキューム
車も必要とした。

重機類はそのほとんどすべてが市
内の建設業者の協力により手配さ
れ、動員された。

私たちの街は北陸の雪国特有の冬
の除雪がある。三八豪雪や五六豪
雪を経験したふるさとの主要な道
路には融雪装置が設置されている
ものの、大部分は建設業者の重機
による除雪である。

毎年繰り返し返される除雪のための重
機を保有する地元建設業者は、そ
の機動力と積極的かつ献身的協力
によって、この平成十六年七月福
井豪雨災害で被災したふるさとの
復旧に大いに貢献した。

昨今、国や地方の財政が逼迫し、
建設事業費の縮減による建設業者
の廃業や倒産が相次いでいる。
昨年来の金融危機の大洪水で、公
共団体が発注できる建設事業費が
更に減少することが避けられな

い中で、災害時に対応できる建設
業者をどのように育成していくか
ふるさとの土木行政の重要な課題
のひとつである。

「社」京都府建設業協会 会長に就任して



京都支部副支部長
岡野益巳
昭和四十七年卒

この度、京都支部長の進士先輩
よりのご依頼で甚だ僣越ですが、
(社)京都府建設業協会の会長として
投稿させて頂くこととなりました。

そもそも私は、立命館大学を卒
業したあとは他社へ就職をして、
色々な経験を積んで視野を広げた
と思います。ところが、
その時、家業の(株)岡野組の状況が
思わしくなく、家業の即戦力にな
るよう要請されて、已むなく入社
することにしました。

それ以来、当り前の事を当り前
にただひたすら建設業一筋に歩ん
で参りましたが、その節々に立命
館大学建設会の先輩各位のご支援
や励ましを頂き、又、多くの同級
生の熱い友情を受けて今日まで仕
事を続けてこられたと感謝をして
いるところです。

昨年の五月に(社)京都府建設業協
会の創立六十周年記念式典の総会
に於いて、因らざるも会員の方々の
賛同を受け第九代会長に就任いた
しました。

京都府内には京都支部、宇治支
部を始め、北から南まで十二支部
に分れておりますが、十年前には
五〇〇社であった会員企業が、現
在は約三〇〇社に減少しておりま
す。皆様もご承知の通り、この会
員企業の減少の原因は倒産のみな
らず、多くの問題が各社共に山積
みされ、それに加えて大不況の波

で非常に厳しい経営環境に直面し
ているからです。

私が就任して、まず驚いたこと
は会長就任と同時に全国建設業協
会の会合出席の他、建設業労働災
害防止協会の京都支部長等、当
職が十五団体程あり、兼任しなく
てはならないことでした。これ
では決められた公務を熟すのがや
つとです。この事を踏まえ、このよ
うな時に地域の中小建設業者の先頭
に立って、業界の会長としての重
責をどう果たすかにも苦慮してい
ます。

地域にとって必要となる価値あ
る建設業を目指し、同時に若者達
が夢と希望を持って将来を託せる
ことが出来る、魅力と活力のある
産業を目指して、優れた技術を
持った企業が必ず伸びていけるシ
ステムづくりに取り組み、微力な
がら業界、延いては社会のお役に
立てるよう精進したいと思ってい
ます。

私にとって滋賀県の奥津さんや
立命館ご出身の方々に国土交通省
の会合等でお会いしますと、それ
だけでも心強く、励みになります。
残念ながら建設会への出席もまま
ならず、欠席続きで役員としてご
迷惑をお掛けしているのが現状で
すが、少しでも時間をとって皆様
にお目に掛れますことを楽しみに
しておりますので、今後もご指導
の程宜しくお願いいたします。

愛知県支部の近況



愛知県衣笠会会長
高杉 一
昭和四十七年卒

平成二十一年度愛知県衣笠会の
会長を勤めさせていただいて、半
年以上が過ぎました。
本会の特徴は会長の任期が一年で、

還暦を迎える年に会長の職に就く
規約です。

これは会発足三十五年になります
が、設立時から現在も守られてお
ります。

建設業界に勢いがあつた時代は希
望者が多く、公平に年功序列で会
長職を勤めることを目的に決めら
れました。しかし最近では世界的
な経済危機、建設不況を反映し、
自ら進んで手を上げる方も無く、
お互い押し付けあつていいると言
うのが正直な所です。

会長の職務は他支部への総会出
席、年一回の総会開催が主なもの
ですが、ここ数年は総会参加者の
減少に寂しい思いをしております。
十数年前は例年一〇〇名を越え
る参加者の熱気で盛り上がりまし
たが、年々減少するため昨年は幹
事の呼びかけで、以前のように一
〇〇名以上を集めるべく関係方
面に声を掛けましたが、結果は残
念ながらかううじて五十名の参加
を確保できた状況です。

母校においても理工学部から土
木の名が消えて久しく、卒業生の
就職先もゼネコン、コンサルへは
極めて少なく、進学が建設業とは
無縁の業界に進まれる方が、増え
ているように思います。自分の
周りを見ても話題はリストラ、早
期退職、規模の縮小など明るい
話題はありません。以前の建設
業界の悪評であった3Kどころ
か「きつい、汚い、危険、厳しい、
給料安い、休日少ない」の6K状
態です。特に中部地区はトヨタ
ショックの影響で、ピーク時から
の落ち込みが予想を遙かに越えて
おり、さらに昨今は本来の建設業
がインフラ整備に果たす重要な役
割が認識されず、残念ながら悪い
面ばかり強調されているように思
います。バブル全盛期の投資額
から大幅に市場が縮小している現
状では、今後しばらくは業界再
編、統廃合のため厳しい状況が続
く事は予想されます。しかしこ

事務局より お知らせ

■会員登録データ

立命館大学建設会会員の皆様の名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」文書上段に記載されているデータをご確認いただき、修正や変更がございましたら8月末日までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、2008年12月発行の「平成20年度版会員名簿」は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきました。名簿ご希望の方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(6,000円)を納入いただきますと、入金確認が出来次第名簿を送付させていただきます。

※なお、8月13日～23日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学理工学部環境都市系事務室内(担当:山元)
TEL: 077-561-4911(番号が変更されました) FAX: 077-561-2667

http://www.ritsumeit.ac.jp/se/rv/ob.html
E-mail: yyv97024@se.ritsumeit.ac.jp
会費払込郵便振替口座: 02 大阪 01080-1-884

の状況を乗り切り生き残った企業こそが、社会的に認められたと誇りを持ち、若手技術者が将来に夢を持つ魅力ある業界にする事が、我々の世代に課せられた責務と認識し、微力ながら日々努力させていただきます。

関東建設会 平成二十一年度総会開催



関東建設会幹事
肥田研一
昭和四十九年卒

関東建設会は、平成二十一年度総会を七月三日に、東京大手町サンケイプラザにおいて開催しました。同窓生三十名の参加があり、来賓として、本学から環境システム工学科の早川清教授、建設会会長可児幸彦様、東京キャンパス所長北本暢様にお越しいただき盛大にまた、和気あいあい開催できました。

総会では、山田正敏会長が最後の議長として議事を進め、満場一致で承認されました。今年度、役員改選で新会長に加藤洋一郎様、新副会長に江間美久様、新幹事長に米谷清様が就任し、幹事も若い方に加わって頂いており、平均年齢も少し若返りました。総会後、加藤新会長は、今後の抱負の中で、卒年次の若い仲間に参加と、イベントやゴルフ会などを検討したいと挨拶がありました。懇親会に移り、早川教授のご挨拶に大学の学部として、平成二十二年四月にスポーツ健康科学部が新設され、生命科学分野を含め四学部の総合理工学院ができるとの紹介がありました。我々の頃とはずいぶん様変わりして発展しているとの印象をもちました。



関東建設会参加者

また、建設会可児会長からは、現在建設会会員は一万一千名ほどで十八支部がそれぞれの活動をしているとの報告がありました。東京キャンパス北本所長は、キャンパスが丸の内にあるので校友の親睦の場としてぜひ立ち寄ってほしいとの話がありました。最後に、山田顧問の指揮のもと校歌斉唱で今年度の総会もお開きとなりました。

札幌市の地震被害想定



北海道支部
山形文孝
昭和五十九年卒

建設会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私は、現在北海道支部の事務局次長を務めております。北海道支部では例年三月に支部総会を実施しておりますが、近年参加者の顔ぶれが変わらず、もう少し多くの方々(特に若い方々)に参加していただけるような工夫が必要だと感じております。皆様の支部におかれ

ましては、いかがでしょうか。さて、私の近況をご報告いたしますが、今年で札幌市役所に土木職として奉職し二十三年目を迎えました。これまで札幌市の土木職は、道路、河川、上水道、下水道など、土木技術を活かした分野に配属されておりました。しかし、昨今の財政状況の悪化や福祉業務の拡大を背景に、近年では、これまで事務職が担当していた一般行政の分野にまで、配属先が広がっております。私自身もこれまでは、主に道路畑に配属されておりましたが、今年の四月からは、自然災害や大規模事故などの危機事象に対する、札幌市の統括部署である「危機管理対策室」に配属となり、土木職としては稀有な経験を現在重ねておるところです。

昨年札幌市では、阪神淡路大震災直後に策定した、これまでの地震被害想定を十年ぶりに見直ししました。この新しい地震被害想定では、札幌市直下にも内陸型伏在活断層が想定され、震源はマグニチュードが七・五、最大震度七を観測し、発災が厳寒期の最悪の事態と仮定すると死者数が八千人を超える、甚大な災害が起こり得ると想定されております。

この想定を受け、地域防災計画の見直しを「より実践的な防災体制の確立に向けた取組」「防災協働社会を目指した取組の充実」「積雪・寒冷など札幌の地域特性を踏まえた対策の充実」という三つの視点から現在取組んでおります。このなかでは、行政の取組を進めることはもちろんのこと、自分の命は自分で守るという「自助」、地域住民の命は地域で守る「共助」の取組も盛り込むよう進めているところとです。

札幌市は、民間の地域ブランド調査の結果、全国七十九市のなかで「もっとも魅力的な街」という評価をいただき、また、市民への愛着度調査では毎年九十五%以上

道路特定財源制度の見直しを通じ



福岡県支部
日高保
平成九年卒

の市民が「札幌が好き」と答えています。今後もこの素晴らしい街の安全と安心を守るために、地域住民等と行政との協働による計画的な災害対策を講じ、災害に強いまちづくりを推進していくための一翼を担っていければと思っております。

福岡県庁に勤めて十年の月日が経ちました。これまで道路事業を中心に携わってきましたが、中でも最近の大きな節目となった道路特定財源の一般財源化について触れてみようと思っております。今から一昨年前になりましたが、当時私は道路の建設事業を所管する部署で業務の進捗管理や予算に関する業務に携わっていました。そのころ世の中では景気悪化や年金、社会保障といった問題が深刻化し、公共事業への風当たりも強い社会情勢でした。また、道路事業に至っては道路特定財源という道路事業に用途が限定された財源が制度化されてきたため、特定財源を使い方が限定されない一般財源にするというところが世の中の関心事となっていました。

道路特定財源は地方財政上も貴重な財源の一つになっているため一般財源化に伴い各自治体は財政に大きなダメージを受けるのではないかと危惧していました。当然福岡県においても制度存続の声を上げ続けましたが世間の声に後押しされるような形で一般財源化するという判断が下され、今年度の予算より一般財源となっております。

現在百年に一度といわれる経済危機に直面しているため、補正予算などが組まれ緊急的な財政出動が行われていますが、いざれ迎える緊縮財政下において、これまでのような事業展開は困難になると予想されます。道路には国民生活に果たす大きな役割があり多種多様なニーズがあります。既存ストックの維持・更新も必要ですし、社会のニーズに対応していくために道路整備はまだまだ必要とされています。これまでは特定財源というある意味担保された財源があったために道路事業の必要性等について国民への訴えていく事が十分できなかったかもしれないですが、道路事業を展開していく上で社会が何を求めているのかを素早く察知し、対応するという不断の取り組みを通して公共事業に対する不振を払拭していく事が重要です。今回の一般財源化という出来事がただ財源の色を変えるというだけの目的にとどまらず、道路事業の必要性について国民の理解を得ることがいかに重要なことを再認識する必要があります。

都市・地域経営のサステイナビリティ研究



総合理工学研究機構
特別任用教授
春名 政

この四月一日より新しい肩書きの下での大学の仕事が始まりました。環境システム工学都市・地域計画研究室の名前を引き継いでくれて、六名の四回生の卒業研究を始めた銭学鵬講師のアドバイザー、また、現職の教授(主査)の了解の下で、九名の修士学生の研究を

指導する副主査の立場として、定年退職以前とあまり変わらない講義の分担とともに、学生研究指導・教育活動内容にはあまり変化がない。それなのに、何か落ち着かず「変な気分」で三ヶ月を過ごしてきた。大学内の活動では、このような落ち着かない気持ちを紛らわせるため、従来にも増して、次のような研究活動を強力に推し進めてチャレンジ精神を高揚させている。すなわち、日本の都市・地域社会の安定的発展を目指して、農業、林業、水産業、等々、地方の伝統的地場産業の構造改善事業活発化の促進概念開発を目指して研究していくこととした。つまり、これら一次産業生産品の加工・処理と、それを支える関連二次産業、並びに、これらの産業を通して得られる多様な地域産品の保管・運輸サービスと大規模商業流通・販売をはじめとする、三次産業と基盤的な一、二次産業との複合産業システム化(農工商の一体化)の育成・促進へのシステムアプローチの研究を進めている。このようなシステム化が進めば、これら一次産業従事者の跡継ぎの若者たちの雇用創出にもなるし、地方部の産業創生にもなる。生産・製造・処理・経営技術に長けた退職者・高齢者も、故郷の自然豊かな環境で穏やかに働き続けることも可能になるであろう。また、生ゴミや有機廃棄物を利用したバイオマスタウンで有機肥料を生産・活用する事によって、環境循環型農業・林業も可能になると考えている。また、観光業とこれら一次・二次・三次産業の複合化という結びつきは今後の地方部の再生に繋がるものと考えている。永続的地域発展や都市・地域経営のサステイナビリティの方法論開発の研究の開始である。このためには、これから、一年に二、四歳年齢を減らしつつ若返って行かないと、目論見は達成できないので精一杯頑張るつもりである。